

ベルギーニュース

赤ちゃんパンダに命名

6/2、Pairi Daiza公園で生まれたジャイアントパンダがTian Bao(天からの宝)と名付けられた。名前はフェイスブックで公募したTian Bao、Xing Hao(幸運の星)、Ou Xing(ヨーロッパの星)、Hua Li(中国とベルギー)、An Tuan(結びついた平和)とともに投票され、40%の支持を得た。ベルギーは両親Hao Hao(素敵な)とXing Hui(きらめく星)を2014年に中国から14年間借りている。



オルタ改装オープン

オルタ美術館が拡大され、10/21から一般公開されている。拡大された部分はオルタ美術館の隣Maison Hiltで、2年の歳月をかけて典型的なブリュッセルの家といわれる連続した3部屋を改装した。今後美術館の入り口はこの改装部分からで、モダンな階段などを見学しながら美術館を堪能できる。世界遺産に指定された美術館は一度に12人程度しか入場できず、改装に伴い入場者が極端に増えることはありえないが、受け入れ態勢は良くなるとオーブリー学芸員の説明。建物の購入と工事に350万ユーロを費やした美術館は、今後サン・ジル区の所有となる。

食文化、機内にも

9/15よりBrussels Airlinesがソース販売会社Devos Lemmensとのコラボで、2時間以上飛行するフライト内で、ベルギー名物のフライドポテトを販売する。セキュリティのため、加熱はオープンで行われる。ソースは、マヨネーズとアンダルスアソースの2種類。€3.50のフライドポテトに€0.50のソース、€2.50のビールで、どこへ行っても気分はベルギーに。標高10kmでのムール貝はいつ登場するのだろうか？



国王・王妃、日本訪問

10/9～15の間、フィリップ王とマチルダ王妃が100人近くのベルギー企業のトップとともに日本を公式訪問した。訪問の日程は、イギリスのヨーロッパ共同体離脱以前から計画されていたもので、ベルギー・日本友好150周年を記念したものであったが、イギリスの離脱に伴い日本側から多くの経済的打診を受けた。現在300余りの日本企業がベルギーにあり、2万5千人のベルギー人が雇用されている。ベルギーは、ヨーロッパ内で日本からの輸入第4位、また日本への輸出第7位である。イギリスのEU離脱後日本からイギリスへの進出が難しくなり、ヨーロッパの中心地ブリュッセルに進出してくる企業が増えるかもしれないとベルギー側は期待している。

糖尿病増加

ルーバン・カトリック大学仏系(UCL)の調査で、今後10年間に45歳以上の人の半分以上が糖尿病タイプ2を発症するだろうという報告が発表された。性別に関係なく25%の人は糖尿病タイプ2のリスクはなく、35%の人は4%の確立で糖尿病にかかり、17%の人はかかる確立が高く、23%の人は33～50%の確立で糖尿病にかかるとの調査結果だった。



危ういところだった

10/5、ザペンテム空港で、滑走路07Rからミュンヘンに出発するルフトハンザ機(ドイツ)とダブリンから滑走路01へ着陸しようとしたAer Lingus機(アイルランド)が衝突しそうになった。両滑走路は、地上で交わっているもので、危険でありかつ他の滑走路に比べ安全性が十分ではない。当時天候に異常はなく、滑走路01を使用する必要はなかった。この事実は深刻であると、AAIU(Air Accident Investigation Unit)などの関係機関は調査に入った。

大金が当たった !!!

10/11、ベルギーで最大の賞金1.68億ユーロを仕留めたベルギー人は、ブリュッセルに住む45歳の男性で、スカルペークでユーロ・ミリオンを購入した。この男性は10年間宝くじをし続け、当選のくじは15ユーロ分を購入し、自ら5つの番号と2つの星番号を選んでいった。賞金は生活に必要な貧しい人たちと分けるという。前回の最大賞金1億ユーロは、2007年ティールモン(Tirlemont)に住む人が当たっていた。

ドイツと握手

9月末、ドイツ・ルフトハンザ航空は、ブリュッセル・エアラインズを傘下に収めるSN Airholdingを買収すると発表した。ルフトハンザ航空は2009年6月以来SN Airholdingの株を45%所有しているが、さらに55%を買い入れ完全子会社化する。10/17夕刻、Carsten Spohrルフトハンザ航空社長はブリュッセル・エアラインズをローコスト航空Eurowingsとして今後を提案するが、ベルギー側は買収額やベルギー企業として継続すること、国際的乗り継ぎ空港としてのザペンテム空港のあり方などに不満を表明しており、更なる話し合いが必要になると予想している。

